

日中友好新聞

創刊 1972年

No. 993

2023/3/15

日中友好新聞

発行所 日本中国友好協会
〒111-0953
東京都千代田区民権1-3-5
日中ビル5F
電話 03(528)2140(代)
FAX 03(528)2141
http://www.jcfc.or.jp
E-mail: info@jcfc.or.jp
編集 10110-1-2176

日中友好協会
岡山支部
〒710-0034
岡山県北区下伊福
西町1-53 民生会館1F
TEL: FAX: 0861-250-1804

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町東2-461-45
TEL: FAX: 0861-411-7800

故小林軍治と第六次龍爪開拓団

近現代研究者 青木康嘉

1. 小林軍治先生への追悼文

―兄貴であり、同志であり、愛すべき先生であった！―

小林軍治先生、お疲れさまでした。最後まで元気で走り続けた軍治先生のような生き方をしたいと、私も思っています。謹んで哀悼の意を示します。

軍治先生との出会いは、約60年前ですね。内山下にあった実家が岡山空襲で全焼し、戦後父の会社の社宅で生まれて、祖父母が清輝橋に移ってきて住み始めたのが1959年でした。岡町にあった「小林食品店」でお父さんとお母さんが働いていました。決して愛想がいいとは言えないお母さんの八百屋は、公設市場より野菜が安かったし、よくお使いに行っていました。いつしか物心が付いた頃から 小林の八百



(写真:龍爪開拓団日の出郷跡で)

屋さん一家は、開拓団へ行って満州から命からがら引き揚げてきたんよ」という話は近所のよしみで聞かされていました。

軍治先生と直接知り合ったのは、高教組という組合活動や民主教育から同和教育への名称変更問題の頃からだったと思います。私が玉野光南高校時代に、灘崎町(現・岡山市)西七区に住む元大主上房開拓団からの聴き取り、現地訪問の旅を企画した頃でした。当時中国残留孤児の永住帰国も増えていました。私は、開拓団や義勇軍の研究をし、さらにその当事者や残留孤児たちと共に訪ねました。社研部で「中国残留孤児問題」を取り上げて、全国集会で構成劇を発表しました。その頃備南高校から岡山南高校に赴任していた軍治先生に先生も一緒にやりましょう」と何度も呼びかけましたが、ナマ返事しかなかったことを覚えています。2003年3月末、軍治先生が定年退職されました。軍治先生のお母さんは、退職するのを見届けるように3月30日に亡くなられました。退職を機に、ライフワークとして日中友好協会の活動を始めましたね。その年夏、さんかく岡山で中国残留孤児展を企画した時、高杉久治さんが「残留孤児」の惨状を知ってほしいと軍治先生に訴えた時から活動は本格化しました。中国残留孤児が永住帰国後働き始めて、60歳に定年を迎えて、国民

年金の三分の一22000円と10年前後しか勤務経験がなくわずかな退職金と数万円の厚生年金では定年後生活ができない、残留孤児たちの多くは生活保護法対象家族となりました。東京ではすでに中国残留孤児裁判が提訴されていました。軍治先生の動きは早かったですね。中国残留孤児裁判を提起し、奥津亘弁護士を団長に則武透弁護士を事務局長とし、原告団長に高杉久治が就任しました。2004年2月20日、岡山地裁に香川県の孤児を含め27人が提訴しました。この間の軍治先生の活動と運動は素晴らしかった。研究という事では青木先生にかなわないが、運動や活動という事では私の方が一日の長があるからな」と笑って言われました。私の開拓団・義勇軍研究と軍治先生の運動と活動は、岡山県弁護士会の提訴する上で両輪となりました。軍治先生の活動は、裁判闘争の支援だけでなく、日本語教室、帰国者のつどい、「餃子作り」、望年会など活動の輪は、日本人と孤児の交流の輪へと広がっていきました。

2007年11月、中国残留邦人支援法改正案が衆参全会一致で可決されました。2008年2月21日、岡山地裁での提訴を取り下げました。4月から残留孤児は、生活保護に代わる国民年金満額支給、給付金制度が実現しました。啓発活動の一環として、市役所ロビーでの中国残留日本人孤児問題の資料と写真展も始まり、今では14回目を数えています。もう一つ、軍治先生との関わりは龍爪開拓団への友好の旅です。2005年は奥津・則武弁

護士や原告団長高杉久治の同行を得て、七虎力開拓団や龍爪開拓団を訪問しました。弁護士や支援者に現地を生で見てもらいたためでした。この訪問で大きな役割を果たしたのが、1983年6月、父親の小林光雄と軍治先生が再訪した時の写真でした。龍爪開拓団の「元日の出郷」跡が確定できたのは、この時に一緒に写っていた女性の写真が決め手でした。2007年は、原告団事務局長の高見英夫や軍治先生や織田エミ子という龍爪開拓団関係者の同行を得て、龍爪開拓団の場所や逃避行の足跡をたどりましたね。この2回の訪問では、龍爪希望小学校との交流や軍治先生や高見英夫の住んでいた旧日の出部落を訪ねることができました。2012年、満蒙開拓青少年義勇軍村上中隊長山勝巳の足跡を訪ねる旅の時も龍爪開拓団跡を訪ねました。2015年、2017年、2019年と龍爪開拓団を訪問した時から、元日の出郷(龍爪四隊)の住民との交流が進み、我々一行も林口のホテルで宿泊し、夜は住民の人たちとテーブルを囲み、飲食をともし、カラオケを歌う仲まになりました。こうした現在の龍爪の住民との交流ができたのも、軍治先生の人柄や人徳であり、出生の地である龍爪開拓団への熱い想いからだったと思います。

2022年5月31日、市役所ロビー展での精算や展示物を預かってもらいたいからと奥様の運転で我が家に来てくれたのが軍治先生と会った最後となりました。その時、調子が悪くて、おなかに水が溜まっている。(2面へ続く)

日中友好協会岡山支部ホームページ

<http://rizhongyouhao.iinaa.net/>

メールアドレス
nichuokayama@yahoo.co.jp

日中友好協会岡山支部ホームページ

<http://rizhongyouhao.iinaa.net/>

メールアドレス
nichuokayama@yahoo.co.jp

(1面からの続き)

明日検査に行く」といわれました。協立病院の診断検査で「すい臓がんステージ4」と診断を受け、岡大医学部付属病院でもセカンドオピニオンを受けたが同じ診断だったので、手術もなく協立病院の緩和ケアへ入院しました。6月21日、病室から軍治先生の電話を受けました。青木先生、後を頼むぞ。来年も市役所ロビー展をやつてよ。井堀さんや高杉さんを頼むよ。日中の方は犬飼先生と真田さんが後をやつてくれると思う」先生、何言っているんですか、来年は先生と龍爪開拓団や柳樹河開拓団(行くんだから)もう無理だな」まだまだ元気な声なのに:」それが寿命というもんだ」もうええか、青木先生疲れた」

それから3日後に、お亡くなりになった知らせを受けました。6月27日の軍治先生の葬儀は家族葬にもかかわらず、多くの教え子や日中に関わった人など軍治先生の足跡を慕う多くの参列者がこられました。ピースサインをした遺影、軍治先生の家族を愛した人生の足跡、多くの教え子に愛された軍治先生の足跡、ちよつとした運命のいたずらで「残留孤児」になっていたかもしれない軍治先生の足跡と日中友好に注いだ人生が写真で飾られていました。

軍治先生に頼まれたことを、私たち残った者が軍治先生のような行動力で全部できるわけはありません。そこはご許し願って、できる限りのことをします。そしていつか龍爪開拓団を再訪する時は必ず軍治先生の遺影をもつていくことをお約束します。

軍治先生さようなら。ゆつくりお休みください。今までありがとうございました。

3. 龍爪郷とポプラ並木

澗州第六次龍爪開拓団の足跡」に、龍爪開拓団の概要がある。その本に沿って述べていきたい。日本の狭い土地、多くの人口、疲弊した農村、これを解決するには北満州に未墾の沃野がある。これを開墾耕作すれば日本のためは勿論、東亜五族協和になるのではないか。これが、国策移民の動機であった」。

関東軍が、反満抗日で抵抗する「匪賊」を倒し、その後満拓公社が原住民の土地を安く買いたたき、その後開拓団が入植した「侵略」の歴史を知らないのが、当時の「日本人の常識」であった。龍爪の地名は、龍爪山嶺(当時三霊山と呼んだ)からみると、龍の爪のように各丘が派生しているからといわれる。拓務省の担当技師が、飛行機から調査をし、緬羊牧場と開拓団用地にふさわしいということが決まった。

1937(昭和12)年、三徳塾(現・小鳥の森)で研修を受けた後、先遣隊(父親小林光雄が参加)が入植した。団長は和田章蔵。武装先遣隊から3名(山形県の結城、佐藤幸吉、兵庫県の改発岩夫)の犠牲者を出している。船越美智子からもらった写真には、先遣隊の戦死の墓標が写っている。1938(昭和13)年本隊が入植した。各戸に、畑を12町歩、水田4町歩、農耕用牛馬、乳牛、豚、鶏なども支給された。日本で僅かな土地を耕作していた小作人が「小地主」となっていた。1941(昭和16)年の関東軍特種演習の際、軍納野菜をおさめるなど食糧基地化し、現金収入も増えていった。龍爪郷の集落の入り口に、見事ならんだ防風林のポプラ並木が連なる。このあたりから北へ龍爪駅があった付近が「開拓団本部(村役場)」があった場所である。この付近の「北満」特有の景色は、一面のトウモロコシと大豆とひまわりが交互に織りなす。パッチワークの畑である。この龍

爪郷のポプラ並木の左右に広がる風景は「永田」である。「上岡山郷」にいた雪上猛・千歳夫妻の水田耕作指導によって広がった。今でも「上岡山郷」は「雪上」という地名になって残っている。水田を残した雪上夫妻がいかに尊敬されたかがわかる。

(次号につづく)

中国文化に親しむ会

針線包を作ったよ！

2月19日(日)14時から京山公民館で針線包を作る会をしました。

針線包は紙製の小物入れです。いくつものパーツを組み合わせて、たくさんポケットがある入れ物です。中国で嫁ぐ娘におばあさんが折って持たせた裁縫道具入れ、らしいのですが、詳しいことはわかりません。Youtubeなどで「奶奶的針線包」と検索すると、作り方の動画が出てくると思います。

参加者は8人でした。2時間しかありませんので、小さいポケット2つと大きいポケット1つの簡易バージョンの針線包を作れるように、質の違う紙を二組ずつみなさんに用意しました。

折り方の説明を聞いてもらいながら折ってもらったのですが、参加者それぞれの性格が如実に出ていました。

丁寧に折っていく人、何度も確認しながら折っていく人。適当に折る支部長。

しつかりと折りあがった人、よれよれだけど折りきった人。なぜか折れてる支部

長。わいわいがやがやと楽しい2時間を過ぎました。



中国留学生との交流会

次は3月19日(日)14時~16時 京山公民館で、中国人留学生との交流会です。

劉老師から、新しい留学生を紹介していただきました。内モンゴル出身の楊文華さんです。

皆さん、ぜひご参加ください。ちゅうごくのこと、ぜひ聞いてみたいことなど楽しく交流しましょう。

次回の新聞発送作業は
3月31日(金)午前10時半から

民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

井田内
河真竹